

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	あすなろの家	評価実施年月日	H21年8月25日
評価実施構成員氏名	代表取締役 金子 敏幸 ・ 管理者 八重樫 真由美 ・ 介護支援専門員 桑山 則子 ・ 2階フロアースタッフ		
記録者氏名	八重樫 真由美	記録年月日	H21年9月10日

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>平成17年に、社長・スタッフで理念を見直し、現在の理念を作りあげました。</p>	○	<p>理念に添って介護をしていく。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>フロアや玄関に提示し、普段から理念を意識するよう心掛けている。</p>	○	<p>今後も理念を意識するように努める。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>あすなる便りに記載し、毎月ご家族に送付すると共に、町内会の回覧板に入れさせて頂き地域の方にも観て頂いている。</p>	○	<p>今後も継続していく。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>ホーム周辺で散歩等をしている地域の方々に挨拶を心掛けている。また、ホームで飼っている動物を通し地域の方々との交流も大切にしている。</p>	○	<p>今後も挨拶を基本とし、地域の方々との交流を大切にしていく。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>あすなるグループのイベント(あすなる祭り)に地域の方々にも参加して頂き交流を深めている。21年度は、昨年より沢山の地域に方々の参加となりました。また、町内行事の案内を頂き参加させて頂いている。</p>	○	<p>ホームでのイベントを継続し、交流を大切にしておく。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議を通し、地域の方で介護等で困っている方がいらっしゃる時には、紹介して頂けるよう話している。</p>	○	<p>気軽に声を掛けてもらい、相談等しやすい雰囲気作りをする。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>全体会議にて、改善事項について職員で話し合っている。</p>	○	話し合いによって一つでも改善できるように努力する。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>事業所ごとの現状報告、ヒヤリハット・事故報告書の概要・件数の報告。フロアでの行事(外出等)の報告。</p>	○	今後も2ヶ月に1度、運営推進会議を開催していく。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>生活保護受給者の部屋確認に担当者が来訪した際、入居希望者の相談をしたり、意見交換等をしている。</p>	○	必要性のある方がいらした場合は、その都度支援するように努める。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>現在まで、後見人制度等必要な方の入居者様はいませんが、研修等があった際は参加している。</p>	○	必要性のある方がいらした場合は、その都度支援するように努める。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>身体拘束委員会を設置し、定期的ミーティングを行い、虐待が行われないよう努めている。また、フロア内で言葉使いが乱雑にならないように注意あっている。</p>	○	入居者様との距離に気を付け、慣れ合いでの言動にならないよう努める。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>問い合わせ後、ご本人・ご家族に2・3回面会しホームへの不安・質問等に答えている。身体レベルの低下等によりやむを得ず退去になる場合は、主治医の意見を重視し、ご家族と今後について十分な話し合いを設けている。</p>	○	今後も入退去時、ご本人・ご家族に納得頂ける支援をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様と関わる時間を多くし、出来る限り入居者様の話に耳を傾けるよう努めている。	○	入華奢様との信頼関係を築き、不安・不満を言える雰囲気作りを心がける。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	生活の様子: 月1回発行の<あすなろ便り>の一角に個々の生活状況・受診結果等を書き加え報告すると共に、必要に応じ電話連絡も行っている。 金銭管理: 毎月15日前後に、預かり金の残高と出納帳が合うか確認後、出納帳をコピーし、ご家族に送付している。	○	今後も、ご家族と報告を密にしていく。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	来訪時、疑問・意見を話して頂いている。また、運営推進会議の代表からも意見等を頂き、今後に反映している。	○	ご家族等が意見を言いやすい雰囲気作りに努める。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回、主任会議を開催し、スタッフの意見等を聞き入れている。	○	可能な限り時間を作り、スタッフの意見を聞き入れ働きやすい環境づくりに努める。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	先方の都合の良い日時に合わせるようにしている。	○	今後も先方に合わせていく。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	働きやすい環境づくりを心がけ、極力移動等は控えている。やむを得ず離職・移動した際は、入居者様が早く環境に慣れるよう支援していく。	○	今後も馴染みのスタッフで支援して行けるよう努める。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>経験年数等で、そのスタッフに合った外部研修に参加している。また、2ヶ月に1回、研修委員が中心になり全スタッフを対象に内部研修も行っている。</p>	○	今後もスキルアップの為、研修に参加していく。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>小樽市認知症高齢者グループホーム連絡協議会、北海道グループホーム協議会の研修に参加し交流の機会を作っている。</p>	○	交流の機会を増やしていく。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>報告を密にし、常に相談する機会を設けている。</p>	○	今後も報告を密にする。
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>出来る限りフロアーに出向き、スタッフの声を聞くよう努力している。今後も継続するよう努める。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>入居前、2、3回の面接をもち、本人から不安等を詳しく聞き、それに関し説明をしている。また入居後、本人との関わりを多く持ち、傾聴の時間をつくっている。</p>	○	今後も本人がある程度納得してから、入居して頂けるよう心がける。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>相談時、困っている事・不安等を詳しく聞いている。また本人との面接に再度聞く時間を設けている。電話連絡も随時受け付けている。</p>	○	ご家族の質問等にその都度説明し、納得して頂く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	問い合わせ時に聞いた話しを参考に、ご本人に合ったサービスを提供している。	○	入居後は、身体状況等の観察も重視する。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居後、可能な家族には頻回に来訪して頂く様にしている。関わりを多くし環境に慣れるよう支援している。	○	関わる中で情報収集し、日常生活に役立てて行くよう努める。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	ご家族様に、何でも相談できるような雰囲気づくりをしている。	○	今後も+笑顔が絶えないフロア作りを力を入れて行く。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との信頼関係を築き、些細な悩みや相談にも耳を傾けるよう努める。	○	日常の声かけを忘れず、信頼関係が築けるよう今後も努力する。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族との外出・外泊等も支援して行く。	○	今後も、ご家族に理解して頂き、協力をして頂く。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	住んでいた家の近隣へドライブに行ったり、知人等の来訪時、居室にて話しを楽しんで頂いている。	○	今後も支援して行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	フロアーにて音楽を聴いたり、テレビを観たり居心地の良い環境づくりに努めている。	○	トラブルなく楽しく生活が送れるよう努力して行く。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	身体低下等で、やむを得ず退去になった入居者様に対し、移転先へ面接に行ったり、ご家族と今後について話しをしている。	○	退去後も、ご家族からの相談を受け対応して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限り本人の意向に添う対応をし、個人を尊重し不満等に対し、その都度対応している。	○	不穏・不満の訴えに対し、対応を強化して行く。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前、面接時に本人・ご家族に詳しく尋ねるも、忘れてたり覚えてない等の答えが多い為、分かる範囲で情報収集をしている。	○	環境に早く慣れて頂き、関わりの中で情報収集して行く。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々の趣味・興味ある事を把握し、秘めている力を引き出せるよう努力する。また、毎日定期的にバイタル測定を行い、心身状況の変化の早期発見に努める。	○	今後も継続していく。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	定期的なモニタリング・毎朝のミーティング等で話し合い、本人・ご家族の意向に出来る限り添えるように作成している。	○	介護計画に無理がないように、一つ一つ確実に取り組んで行けるような計画を立てて行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	入院等でのADLの低下・認知の進行が目立つ場合、支援経過・生活の様子を観察し計画の見直しをフロアスタッフ全員で	○	介護計画に期間にこだわらず、介護スタッフの意見を参考にし、ニーズを取り入れながら見直ししていくよう努力していく。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケア・記録実践・介護計画の見直し、ケアマネ・スタッフで話し合いがされえいると思われれます。	○	個々の、その人らしい日々の生活の様子をプランに取り入れ、プランに添った記録にするよう努力する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	ご家族との外出・外泊。その他、受診の送迎等、柔軟な対応を実施している。また、ホーム2棟と小規模多機能との行き来等行っている。	○	小規模多機能との連携を充実させ、多機能での柔軟な入浴・リハビリ等を実現したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	本人の意向は、ほとんど聞かれる事はありませんが、2ヶ月に1度、地域の方による歌ボランティアが入り、楽しんで頂いている。	○	今後も、ご家族と報告を密にしていく。必要に応じ支援していく。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	現時点での他サービス利用等はありません。	○	今後、必要に応じ、その都度対応して行く。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現時点での協働はしていない。	○	今後、必要に応じ、その都度対応して行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	定期受診や往診にて、状態を報告し指示を頂いている。また、休日・夜間の急変時、電話にて報告し指示をして頂いているほか、必要に応じ往診もしてもらっている。	○	今度も報告を密にし、入居者様の健康管理に努める。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	医師に身体状況を詳しく伝え、指示をあおいでいる。	○	医師との連携を密にし、些細な事でも相談できる関係を築くよう努める。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	隣の棟に看護職員を確保しているので相談したり、協力医のナースに電話等にて相談させて頂いている。	○	今後も継続して行く。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院先へ面会に出向き、担当医師・看護師に状況等を詳しく聞いている。また、病状急変時はホームにも連絡を頂いている。	○	医療機関との連携を密にしていく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	身体状況をその都度家族に報告し、医師からの意見・指示を頂きながら、方針をきめている。	○	早めの連絡・相談等に努め、医療との連携を密にして行く。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	飲食が極端に減る等、身体状況に応じ医療処置が必要になった場合は、往診・入院等の相談を家族・かかりつけ医と話し合っている。	○	早めの連絡・相談に努め、医療との連携を密にして行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49	○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	より多くの情報を先方の関係者に伝え、早く知って頂くように支援している。	○	情報交換を密にすることで、本人を知り関わりを増やす事で、新しい環境に早く馴染めるよう支援する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	排泄等のプライバシーに関わる事は耳元で話し、ご本人の自尊心・羞恥心の保護に努める。	○	今後も配慮して行く。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	個々のレベルを把握し、その方に合った説明をするよう心がけているも、伝わっていない時等は、言い方を変えたり、短文にし身振りも交えるなど工夫している。飲み物の希望は、メニュー表を作成し選んでもらっている。	○	今後も継続していくよう努める。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り希望に添うよう心がけ、本人のペースに合わせて生活を送れるよう支援している。	○	業務が中心にならないように気を付け、入居者様を中心とした生活になるよう今後も努める。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	更衣時、本人に好みの洋服等を選んで頂いている。また、行き着けの美容室・理容室を希望の際は送迎をしている。	○	今後も支援していく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	準備・後片付けは、個々の力に合った手伝いをして頂いている。また、好みや希望に添うよう努めている。	○	今後もかかわりを持ちながら、個々の力を引き出せるよう努める。また、食事を楽しんで頂けるよう支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	可能な限り個々の好みの合わせ提供している。また、買い物にも同行し好みのオヤツを購入して頂いている。	○	現状維持が保てるよう支援していく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェック用紙に時間を記載し、排泄間隔を把握する事により、トイレでの排泄を促している。	○	現状維持が保てるよう支援していく。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日は決めさせて頂いていが、時間帯は本人の意向に極力添えるよう支援している。	○	今後も本人の意向に出来るだけ添うよう支援していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ご本人の生活習慣に合わせて対応するよう心がけている。また、就寝時間等も個々のペースに合わせている。	○	今後も個々のペースに合わせていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	秘めた力を引き出し、その方に合ったお手伝いをして頂いている。また時折、散歩や買い物をし気分転換をしている。	○	かわりの中で個々の力を見出していけるよう努める。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	管理可能な方のみ、自室に少ない額を所持され、買い物時支払いを個人に行っている。	○	今後も所持金が多額にならないよう、ご家族にも協力して頂く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	出来る限り希望に添うよう努力している。動物セラピーを通し餌やりの際、一緒に外へ行き日光浴等をしている。	○	今後も継続し支援して行く。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	個別にはなかなか難しいが、少人数やフロアごとのドライブや買い物を楽しんだり、ご家族と外出をされる方もいる。	○	今後も、ご家族にも協力して頂きながら支援して行く。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望時に電話を取り継いだり、本人が書いた手紙を投函している。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	来訪時間は決めていない為、いつでも自由に入出入りして頂いている。ご本人・ご家族の希望にて、自室やフロアで会話等されている。	○	今後も継続して行く。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	委員会を設置し、身体・言葉の拘束を断続するよう努めている。また、研修会にも参加している。	○	今後も断続して行く。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	オープン当初より断続している。	○	今後も断続して行く。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	見守りを徹底し、個々の行動とプライバシーを配慮しながら、把握するよう努める。	○	絶えずフロアにスタッフが居るように努める。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	個々のレベルに合わせ管理する物を決めている。 (刃物・針等はスタッフ管理)	○	レベル低下の把握に努める。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	個々に合った対応・見守りをし、極力事故を未然に防ぐよう努める。	○	見守り等の強化を徹底し今後も継続していく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	2ヶ月に1度、全体研修を行ったり、フロアにマニュアルを置き個々に勉強をしてもらっている。また、外部研修へも参加している。	○	全スタッフが対応できるように研修を行っていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	運営推進会議を通し地域の方の協力を得られるよう、町内会長様に連絡ルート等を教えて頂き協力をお願いをしている。また、消防署で行う訓練にも参加している。	○	定期的な訓練を行っていく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	ご家族来訪時、リスク等を伝え対応について話している。	○	ご家族との話し合いを密にし、信頼関係を深めていく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタル測定・表情観察をし、体調の変化等がみられた場合は早めに管理者・ケアマネ・他スタッフに報告している。	○	体調の変化の早期発見に努めると共に、対応を共有するよう心がける。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	フロアー内に薬剤情報のファイルを置き、いつでもスタッフが確認し把握できるようにしている。	○	全スタッフが理解できるよう努める。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	チェック表を用いて排便のサイクルを把握し、運動や水分量に気を付けると共に、主治医と相談をし下剤の調整をしている。	○	今後も継続していく。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	起床時・毎食時、自菌・義歯の洗浄を行い、週に1度ポリデント洗浄を行っている。またその際には、その方に合った声かけ・対応をしている。	○	今後も継続していく。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日の食事量・水分量をバイタル表に記載し把握している。また、いつもより食事量が少ない場合は、時間をずらし代用品(コーンフレーク等)を提供している。	○	今後も継続していく。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルを各フロアーに置き、感染症に対する対応を周知するよう努めている。また、手すり等の消毒も行っている。インフルエンザの予防接種については、入居者様・職員全員行っている。	○	予防や対応を全スタッフが理解するよう努めていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食品の購入日を週2回にし、鮮度が良いうちに食す様に心掛けている。また毎食後、台所・調理具の消毒するよう徹底している。	○	今後も食材管理・衛生管理に努める。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	動物セラピーを通し、近隣の方々が気軽に立ち寄って、親しみが持てるよう環境づくりに心掛けている。	○	今後も環境づくりを工夫していく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロアー・廊下等に季節の花や、絵を飾り季節感が出るように工夫している。またテレビ等の音量に気を付け、不快にならないよう努めている。	○	今後も継続していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下の窓辺に椅子を置き、好きな時に座って景色を観たり、気分の合った方の居室で話等されている。	○	個々の過ごし方を把握し対応するよう努める。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時、ご家族・ご本人に使い慣れた家具等を使用して頂くように伝えている。また、配置等も本人と相談しながら行っている。	○	今後も使い慣れた物を使って頂く。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	常に温度計・湿度計を確認し換気を心がけると共に、パネルヒーターの目盛り調節や加湿器使用にて適温を保つよう努めている。	○	今後も継続していく。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	手すりを多く設置し開設以来、転倒防止の為滑り止めカバーの使用を継続している。	○	今後も継続していく。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	個々の「出来ること・出来ないこと」を把握し、お手伝いをして頂いている。また混乱した・混乱しそうになった時等、その都度対応し落ち込まないよう支援している。	○	個々のレベルを把握し支援するよう努める。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	玄関前に東屋や畑、動物を飼っていて、いつでも見に行き楽しんで頂けるようにしている。	○	環境を活かしていく。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ✓③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ✓② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ✓② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ✓③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている <input checked="" type="checkbox"/>②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="checkbox"/>②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="checkbox"/>②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)